

むきうちやくしどう 無災内薬師堂

いま せんにはやくねん まえ へいぜいてんのう みよ
今から千二百年も前の平城天皇の御代のころの
はなし げんさいあと のこ
話です。現在跡が残っている冬室城に、住居を構
えたる藤原諸時という人がいました。諸時は、こ
ふゆむろ のもろとき
の冬室の地を領し、当時の村人から信頼された、
まつりごと ほどここ りっぱ
よい政を施す立派なお殿さまでした。しかし、そ
はは ふじわらけしゅっしん ふじん たいへん
の母にあたる藤原家出身の婦人が大変おこりっぱ
こころ わる ひと もろとき むらびと
く、心の悪い人でした。諸時が村人のためによい
まつりごと ほどここ わざわ
政を施しても災いの絶えることがなく館も二度、
さんど や さすがの諸時
三度と焼きつくすありさまでした。さすがの諸時
も、

「なん こま ははぎみ
何とも困った母君じゃ。」

なや ひび す
と、悩む日々を過ごしておりました。

だいどうさんねん みやこ こうそう くらうかい
大同三年のことでした。都から高僧（空海）が冬室城を訪れ、
やくしほんがんきよう やくし り こうによらいほんがんくどくきよう
り、薬師本願経（薬師瑠璃光如来本願功德経）を説き諸時の母君を教化しました。さら
こうそう みずか やくしによらいぞう につこうぼさつぞう がっこうぼさつぞう ちようこく もろとき ははぎみ
に、高僧は自ら薬師如来像と日光菩薩像、月光菩薩像を彫刻して諸時の母君に与えまし



無災内薬師堂

た。

以来、母君もおとなしくなり諸時に従うようになり、政もうまく施せるようになったという事です。

諸時は、

「本当にありがたいことじゃ。」

と、感謝の気持ちから、七門四面の金堂を建立し、薬師如来像と日光菩薩像、月光菩薩像を安置し、ここを海岸山龍昌寺と名付けたのでした。

その後、村内には災いがなくなり、村人は、

「災いをおっぱらってくれるご利益のある仏様じゃ。」

と、信仰を深め、この薬師如来像を無災内薬師如来、お堂を無災内薬師堂と呼ぶようになり、いつしかこの地が無災内と呼ばれるようになったのだと伝えられています。

現在このお堂は、冬室の龍昌寺境内にひっそりと時の流れを見つめています。なお、

この藤原諸時は飯盛山に根城をかまえ悪事を働き、村人を大変苦しめたという説も伝えられています。これはおそらく諸時の母君の悪事ざんまいの事であつたのではないでし

ようか……